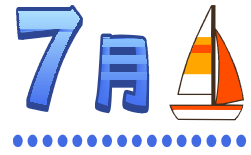




# 明倫

舞鶴市立明倫小学校

令和元年 7月23日



## 夏休みは少し距離を置いて

昨年は猛暑で暑さ対策に頭を悩ませていましたが、今年は気温の低い日が続き日照不足による野菜や果物への影響を心配しなくてはなりません。自然の力の前にいかに人間は無力かを痛感させられます。

先日、学校に巣を作っているコシアカツバメが、いつもと違う飛び方をしていたので気にかかり見ていました。1羽あまり上手に飛べないコシアカツバメがいてその周りを2羽が心配そうに飛び回っているのです。どうもその日の朝巣立ちしたヒナがいて、親鳥が見守っていたようです。初めて空を飛ぶヒナはなかなか思い通りに飛べないようですが、自分の力でなんとか飛び、屋根から屋根へ飛び移っていきました。親鳥はヒナの周りを飛び回りながら地面に落ちないように、またカラスなどにやられないよう見守っていました。

親鳥がずっとヒナのめんどろを見続けることはできません。いつかは自分の力で飛び立ち、エサをとることを覚えなければ生きていくことができないのですから。親という漢字は「木の上に立って見る」と書きますという話を聞いたことがあります。子のことを思うからこそ、少し距離を置いて見守ることができるのが親だというお話でした。コシアカツバメの子育ては、まさにこの話のとおりで、子のことを思うからこそ少し距離をおいて見守っているように思えました。

子のためにとつつい手を出したり口を出したりしてしまうことが多い私たち人間は、見習わなくてはなりません。夏休みは少し距離を置いて子どもを見守る期間かもしれません。

本日、皆様のご協力のおかげで1学期の終業式を迎えることができました。明日から夏休み。保護者の方、地域の方々にお世話になる時間が増えます。地域の行事など様々な場面でかかわっていただくことと思います。学校以外の場面で多くの方とふれあう機会は、とてもよい学習の場となります。様々な面でお世話になりますがどうぞよろしくお願いいたします。

校長 池田 弘一

## 読書のすすめ

なかなか子どもの読書が進まないという話を聞いたことがあります。ある方の話によると、子どもに読書を進めるためには①読み聞かせをすること(無理やりではなく、保護者と子どもでいっしょに過ごす時間を楽しみながら)②保護者が読書をしている姿を目にする環境づくり③思春期以降でも気に入った本に出会うこと(歴史でも伝記でも何でもいい)とおっしゃっていました。「本を読みなさい。」といっても反発するだけで読書好きにはならないそうです。いやいや読んでいてもそれは自分の肥やしにはなりません。

AI(人工知能)が発達してきましたが、読解力だけはなかなか人工知能が追いつけないと言われていています。将来ロボットに仕事をとって代わられないようにするためにも読解力は養いたいです。